



## 12月のエネルギーサロン(2009・12・5)

### 「地域で取り組む低炭素社会づくり～環境モデル都市の動向を中心に」

講師：増原直樹氏(環境自治体会議環境政策研究所研究員・法政大学地域研究センター客員研究員)

日本の低炭素社会づくりは政権交代で大きく加速、2020年25%～30%削減、そして2050年には80%削減という流れになっている。国全体では環境税、排出量取引と制度設計が続いていくが、地域での対策は？市民生活と事業活動はどのように変化していくのか？昨年からはじめた「環境モデル都市」の動向から低炭素地域のあり方を探ってみた。

関係省庁が連携し、実現を支援する「環境モデル都市」として以下の団体が選定された。

大都市：横浜市、北九州市、京都市、堺市 東京特別区：千代田区

地方中心都市：富山市、帯広市、飯田市、豊田市

小規模市町村：下川町(北海道)、水俣市、檜原町(高知県)、宮古島市

それぞれ特徴ある取組みが報告された。その中で、特に印象に残ったものは

水俣市：環境配慮型の暮らし、環境にこだわった産業、自然と共生、環境学習とテーマごとに自由参加の「円卓会議」を設置し、行政が枠組み・計画素案を作成するが、具体化は市民・事業者へ委任。市民参加で低炭素社会をめざすということです。

広島市：モデル都市指定からは漏れたが、市長の積極的なリーダーシップで「カーボンマイナス70」をビジョン化し、エネルギー・温暖化対策専任局長を置き、環境セクション以外でも関連課長は当該局長の指揮を受ける「クロス・セクション制」を導入。縦割り行政ではなく、環境行政を1本化するということです。

## エネルギーサロンのお知らせ (問合せ先 みかんや Tel/Fax 050-5552-8459)

1月16日(土)14:00より、エネルギーカフェ「みかんや」

### 「地方自治体が主導する自然エネルギー・気候政策」

講師：NPO法人環境エネルギー政策研究所主任研究員 山下 紀明 氏

講演要旨：新政権となり日本の自然エネルギー・気候政策は大きく転換しようとしているがまだ議論の途上、一方、自治体による革新的な政策は大きな広がりを見せ、ときには国を主導する役割を果たしてきた。この政策内容を紹介すると共に、これからの地域と国の関係性についても考察していきます。

参考HP：NPO法人環境エネルギー政策研究所：<http://www.isep.or.jp/>

ローカル自然エネルギー・気候政策 東京会議 2009：<http://www.climate-lg.jp/TOLREC/>

2月6日(土)14:00より、ひらつか市民活動センター研修室

### 「気候変動問題の今」

講師：一般社団法人 Office Ecologist ディレクター 大林 ミカ 氏

講師略歴：原子力資料情報室 室員、環境エネルギー政策研究所副所長、駐日英国大使館気候変動プロジェクト政策アドバイザーなどを歴任。「2008年G8サミットNGOフォーラム」の環境ユニットリーダーとして、G8北海道洞爺湖サミットに対する政策提言・市民参加に携わる。共著に「自然エネルギー市場」(築地書館2005年)、「2050年自然エネルギー100%」(時潮社2005年)、「環境と開発のためのグローバル秩序」(東信堂2008年)など。

講演要旨：コペンハーゲン会議(COP15/CMP5)の評価と今後の展望、日本の進むべき道、そして私たちにできること。

参考HP：一般社団法人 Office Ecologist：[http://blog.goo.ne.jp/office\\_ecologist](http://blog.goo.ne.jp/office_ecologist)

## 東京電力川崎火力発電所を見学してきました(2009.11.26)

この発電所は、1961年(昭和36年)に1号機が運転を開始し、川崎臨海工業地域に電気を送り続けて来ました。しかし40歳を過ぎたので、現在、最新鋭の技術を集結した発電所へ生まれ変わろうとしています。

新しい発電所は、「改良型コンバインドサイクル」というMCC発電方式を採用しています。燃料(天然ガス)を燃やして発生させたガスの力で回転する「ガスタービン」と、ガスタービンを回したあとのとても熱い燃焼ガスで作った蒸気ので回転する「蒸気タービン」という二つの羽で発電機を回して発電します。

2009年2月に1号系列150万kW(50万kW×3軸)の発電設備が完成し、全軸の営業運転を開始しています。熱効率を世界最高水準の59%まで高め、従来型のLNG火力と比べて燃料使用量とCO<sub>2</sub>排出量をそれぞれ約25%抑制した、環境にやさしい発電所だそうです。発電機を見た感想は、想像していたよりはるかにコンパクトで静かであったということです。

また、発電に使用した後の蒸気を川崎市千鳥・夜光地区コンビナートへ供給し、同地区10社の工場で再利用することで地域全体の省エネ・CO<sub>2</sub>削減を目指す、大規模な共同事業を開始しています。これにより、年間で約1.1万キロリットル(原油換算)の燃料と、約2.5万トンのCO<sub>2</sub>排出量の削減効果が見込まれているそうです。



1号系列発電設備の煙突(3本を束ねたもの)前で記念写真

### カフェみかんやご案内

新しい年が明けて急に寒くなってきました。カフェでは、熱いコーヒーや紅茶、ハーブティーの他に、小さなお菓子、焼菓子や、スコーンを用意してお待ちしています。

#### ご案内

(平塚駅南口から徒歩7分)



### 会員募集

ひらつかエネルギーカフェでは会員募集しています。

エネルギーや環境問題に興味がある方、勉強してみたい方など私達と一緒に考えてみませんか。

(年会費 1000円)

### ボランティアスタッフ募集

あわせてカフェと一緒に運営して下さるボランティアスタッフも募集しています。

お気軽にお声をお掛けください。

NPO 法人 ひらつかエネルギーカフェ  
〒254-0807 平塚市代官町 27-4  
Tel&Fax 050-5552-8459  
E-Mail

[hiec@cafe.email.ne.jp](mailto:hiec@cafe.email.ne.jp)